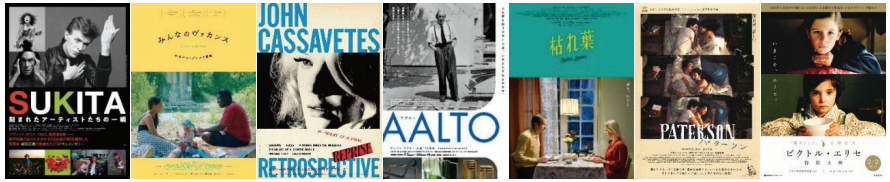
シネマ203

上映作品ラインナップ

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁に、日本最小の映画館がオープンしました。
大きなスクリーンと包み込むような音響で、小さいのに本格的な映画体験をお楽しみください。
ドキドキするような世界の映画を、月替わりで上映しています。



見たい映画を見逃す心配のない映画館に［日時オーダー受付中］

- 毎月の土日祝を中心に、シネマ 203 が上映時間を設定してスケジュールを発表します。
- 見たいのに行ける回がない！ という非常事態には、お気軽に **日時オーダー** お寄せください。
  ご希望の上映時間に、ご希望の上映作品を、追加上映いたします。
  （追加上映は、HP、Facebook、Instagram で随時更新しますので、どなたでもご来場ください）
- 当日券あり、いつでもふらりとご来場ください。
  なお、15 席の小さな劇場ですので、ご観賞の事前予約も各回 10 名様まで承ります。
  （HP のスケジュールページに予約フォーム有。電話、メール、SNS メッセージでの予約も歓迎）

入場料金 （基本料金）

一般：1,700 円 ／ 大専：1,500 円 ／ 小中高：1,000 円

※ 当日入口にて現金のみ。各回上映 10 分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくは HP やチラシにて。

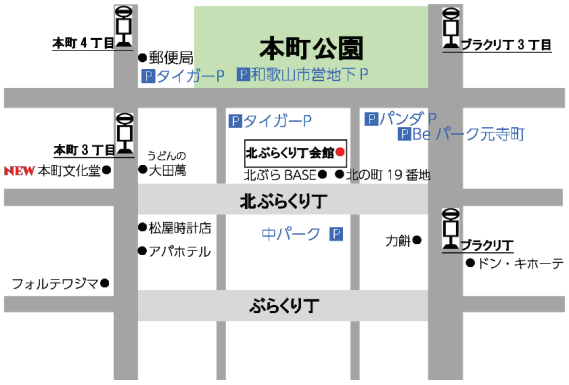
アクセス［北ぶらくり丁会館 2F］

本町公園より徒歩 1～2 分

北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い道路に**[北ぶらくり丁会館]**の鉄看板アリ。奥の赤い階段を 2 階へ。

【駅から徒歩】
和歌山市駅より徒歩 10 分（800m）
和歌山駅より徒歩 25 分（2km）

【駅からバス】各バス停より徒歩 2～4 分
和歌山市駅より約 1～2 分
和歌山駅より約 5～9 分



北ぶらくり丁会館 ２０３号室

シネマ203

cinema203 ５月の上映

和歌山市中ノ店北ノ丁２２
北ぶらくり丁会館 ２０３号室
０９０－８１７２－７０７４
cinema203.com

CineBravo ！ from KitaBra

シネブラボー！［203 号室だより No.8］ 2024 年 5 月

「それは、世界と出会い直す魔法」Introducing バス・ドゥヴォス

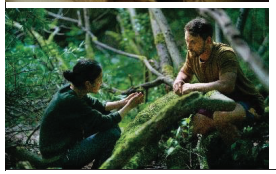
2014 年に長篇第 1 作を発表して以来、世界の映画祭から熱い注目を集めているベルギーのバス・ドゥヴォス監督を、日本に初めて届けてくれる人が現れました。紹介される 2 本は、終電車を逃した掃除婦が帰宅するまでの一夜の物語と、移民労働者が植物学者と知り合う森の物語。誰の目にも触れない、些細で優しい日常の断片が、うっとりするほど心地よいギターの音風景の中に漂います。

ひとりの夜の心細さ、見知らぬ誰かの親切、工事現場、残り物で作ったスープ、顕微鏡で見る森の宇宙、肌寒い夜にすする温かい中華麺。そして、雨上がり……。ドゥヴォス監督に連れられて、静かで穏やかなブリュッセルの人々の横顔を見つめていたら、あわただしかった 4 月の疲れが、少しずつほぐれていくかもしれません。

『ゴースト・トロピック』 GHOST TROPIC

🏆カンヌ国際映画祭監督週間 正式出品

出演：サーディア・ベンタイブ、マイケ・ネーヴィレ、シュテファン・ゴタ ほか
（2019 年／ベルギー／84 分／DCP(16mm 撮影)／スタンダード）



『Here ヒア』 HERE

🏆ベルリン国際映画祭 エンカウンターズ部門最優秀作品賞、国際映画批評家連盟賞

出演：シュテファン・ゴタ、リヨ・ゴン、サーディア・ベンタイブ ほか
（2023 年／ベルギー／83 分／DCP(16mm 撮影)／スタンダード）

監督・脚本：バス・ドゥヴォス
撮影：グリム・ヴァンデケルクホフ　音楽：ブレヒト・アミール
配給：サニーフィルム

何だったんだ、これは!!

ドゥヴォス監督作品と一緒に大スクリーンで見たい、ふと思いました。和歌山に向かってそびえ立つ「太陽の塔」。2018 年、48 年ぶりの塔内展示公開に際して、その謎に大胆に迫ったドキュメンタリー和歌山劇場初公開です。和歌山は大丈夫だ、そんな元気をくれます。

この一大映画プロジェクトの監督に抜擢されたのは、前代未聞の公募で選ばれた関根光才監督。映像作家としても知られる関根監督は、3 月より全国公開中の最新ドキュメンタリー『燃えるドレスを紡いで』(23)に続き、6 月公開の劇映画『かくしごと』(24)も待機中です。

『太陽の塔』 TOWER OF THE SUN

監督：関根光才
配給：パルコ　制作：スプーン
製作：映画『太陽の塔』製作委員会（パルコ、スプーン、
岡本太郎記念現代芸術振興財団、NHKエデュケーショナル）

（2018 年／日本／112 分／スコープサイズ）

連続上映いよいよ大詰め。ドライヤー7 作品と逢瀬を重ねて。

4 月は『あるじ』で、しみじみ幸福感が劇場に溢れた 1 ヶ月でした。うってかわって今月は、東京上映で一番人気だった魅惑のホラー『吸血鬼』と、愛を探し求める女を描く会話劇『ゲアトルーズ』（遺作！）です。そぎ落とされた台詞、撮影トリック、俳優たちの怪演――映画の技巧が称えられるのも納得ですが、まず何よりも、映画というものにここまで圧倒されるのはなぜなのか。一作毎に違うドライヤー監督の魔法を最後までお楽しみください。

来月は、名残惜しい特集の締めくくりに、全 7 作品から人気作品の再上映をいたします。お見逃しの作品がある方も、お申し付けください。

カール・テオドア・ドライヤー セレクション vol.2

『ミカエル』Mikaël (1924 独) 1h35
『あるじ』Du skal ære din hustru (1925 丁) 1h47
『裁かるゝジャンヌ』La Passion de Jeanne d'Arc (1928 仏) 1h37
★『吸血鬼』Vampyr (1931 仏独) 1h14　*初のトーキー
『怒りの日』Vredens dag (1943 丁) 1h27
『奇跡』Ordet (1954 丁) 2h06
★『ゲアトルーズ』Gertrud (1965 丁) 1h58

★ 5 月の上映　（配給：ザジフィルムズ）

「世界を支える無名の人々」

今年の桜は美しかったですね。ご近所の本町公園では、お花見シーズンが終わってからも、駆け回る子どもたちの歓声が止まない元気な日々が続いています。BBQ の匂いでやたらお腹が空く(笑)。

5 月は疲れが出やすい季節だとか。ご安心ください、今月も映画やってます。月に 2 時間、日常生活からの休憩にうってつけの作品が見つかりました。

📽 📽 📽

信じられないことに、最近ではたった一人で映画の全国配給をしている方々がいます。その信念と情熱には鬼気迫るものを感じますが、当のご本人たちは涼しい顔。いいものはいい。なるほど、だからこんなに丁寧なお仕事なんですね。見せてください！

ベルギーのことはよく知りませんでした。人口は東京都の 8 割という小国が 3 つの地域政府に分かれ、各地域で異なる言語を公用語としているそうです。1920 年代から積極的に移民を受け入れ、EU 本部のある首都ブリュッセルでは住民の 75%が「外国人」という欧州の交差点だと。そんな街で暮らす穏やかな登場人物を見ていて、いつも希望を感じさせてくれる岡本太郎の言葉を思い出したのでした。

📽 📽 📽

7 月に、ヴィム・ヴェンダース監督の最新作『アンゼルム』を上映します。戦後ドイツ最大の芸術家アンゼルム・キーファーの巨大アトリエに 2 年間密着したドキュメンタリーです。あそこまで入れることが、まず凄い。『PERFECT DAYS』の感動に続き、ジストシネマ「午前 10 時の映画館」では、5 月から『ベルリン・天使の詩』と『パリ、テキサス』が上映されます。となると、彼の出発点となった西ドイツ時代や、ドキュメンタリーも見てみたい……。

（北ぶらで不安だらけのゴールキーパーより）

本町文化堂 2 階 で 2 本のイベント開催！（ご予約・お問合せはシネマ 203 or 本町文化堂まで）

5/18(土) 16:00 開始	■**トーク『太陽の塔』－和歌山から広がる小宇宙**／南方熊楠研究家・唐澤太輔氏
5/25(土) 17:30 開始	■**『裁かるゝジャンヌ』ピアノ生演奏付上映**／ピアノ楽士・鳥飼りょう氏